海上の森だより

特定非営利活動法人
海上の森の会 会報
第２４号
2011 年 12月 発行

本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森の会」を里山として守り楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。

10/10 森の教室

10/16 海上の森の秋のキノコ

10/2 里の教室・稲刈り

11/20　収穫感謝祭

11/20 里山のものづくり

9/15 南山小２年よりのお礼の手紙

10/27 イノシシの柵づくり

ソバの脱穀

海上の森の会　検索

最新情報は
ＨＰで！

24 号は予算の関係上、モノクロ（一部カラー）に致しました。今後とも試行錯誤にて続けて行きますので、よろしくお願いいたします。

海上の森だより 24 号目次

瀬戸オオサンショウオを愛する会　Ｐ２．３
海上　いま。むかし　Ｐ４
ため池プロジェクト　Ｐ５
里の教室　Ｐ６
海上歳時記　Ｐ７．８
調査学修会　Ｐ9
グループ報告　Ｐ10. 11. 12. 13
１～３月の活動予定　Ｐ14

瀬戸オオサンショウオを愛する会

第８回日本オオサンショウウオの会瀬戸市（愛知）大会を終えて

大会実行委員長　　前田由郎

10 月 1 日、2 日瀬戸市で日本オオサンショウウオの大会が開催されました。オオサンショウウオは特別天然記念物で貴重な生物です。オオサンショウウオは瀬戸市より西に生息しております。オオサンショウウオは瀬戸市では下半田川のみに生息しており、これまでの調査で 54 匹が確認されております。

日本オオサンショウウオの会の事務局（兵庫県朝来市）から生息の東限の地を見学したいとの申し出により、瀬戸市で大会が開催されました。各地で観察保護活動をしている人や研究者が集まりました。

オオサンショウウオが下半田川に、いつ頃から生息していたのか不明です。ただ、祖父母から聞いたことがあるという人もいます。夜行性で昼間はあまり見かけないようですが、田植え時期の水量が多いときは、用水路から蛇ヶ洞川や日向川へ流れ込むあたりには昼間でも見かけるときがあります。

平成 11 年 8 月 25 日、水野秋一さんが会長で「瀬戸サンショウウオを愛する会」が設立されました。
会員は 84 名でした。冨田恒さんが 2 代目の会長を受け継ぎ、平成 21 年 3 月までオオサンショウウオの保護活動に関わってきました。

平成 6 年、県が河川改修を計画し、14 年に工事が終了しましたが、「瀬戸サンショウウオを愛する会」の努力で、堤防に深さ 4 メートルの人口巣穴を 4 ヶ所設置するという画期的な工法が取り入れられました。今後の堤防工事における工法の一例として記録されております。

5 年程前、飛騨川へ鮎釣りに行き、オオサンショウウオが浅瀬の岩の間に頭を突っ込んで、身動きできずにいたのを助けたことがありました。増水したとき泳いで岩のそばまで来て、減水したとき窪みにはまり込んだものと思います。すこしグロテスクではありますが、愛らしい面も持った生き物といえるでしょう。オオサンショウウオにとって私は浦島太郎でありました。

大会が瀬戸市で開催されますと、観察地は下半田川になります。観察に来る多くの人をどのように歓迎するのか知るため、前自治会長と副自治会長の二人に岡山大会の視察に行ってもらいました。

今年の３月に、掛川まちづくり協議会、掛川公民館、両町自治会が連携して町民の皆さんに大会への協力を呼びかけました。５月１日、67 名の参加で、「オオサ

瀬戸オオサンショウオを愛する会

ンショウウオサミットに協力する会」を設立しました。

美しい自然を見ていただくため、季節の花である彼岸花の球根を植えることと、堤防の草刈りとごみ拾いを計画しました。

当地には、彼岸花が良く咲きますが、より多くするため集中して咲いている場所から球根を間引きして、堤防近くの道端に植えました。また、散策道の草刈りとゴミ拾い、川の中のゴミ拾いを行いました。

当日、会員の姿が目立つように、元多治見工業高等学校デザイン科の教師(水野なち子さん)によるデザインのウインドブレーカーを発注しました。このウインドブレーカーはとても好評で瀬戸蔵での大会スタッフも着用し活躍してくれました。

第 1 日は、開会行事と研究発表が行われ、交流会と夜間観察会が行われました。2 日目は、掛川小学校の児童と地元有志による太鼓演奏で歓迎しました。愛知、岐阜から九州までのお客さん約 80 人と地元参加者で、用意した 290 食のマコモの味ご飯も無くなるほどでした。県重要文化財の観音様拝観も多くの見学者がありました。

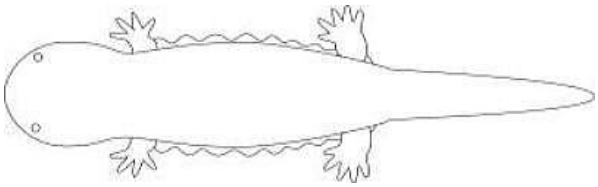
下半田川へ多くの人が集まり、楽しんで帰って頂きました。後日感謝の手紙まで頂き、行事に関わった者の一人として嬉しく思いました。また、これだけのことができたという自信と接待してくれた地元の人たちを誇りにさえ思っております。

この大会を終えて思うことは、地元民の環境への関心が高まったことと絆が深まったことです。

私たちが生活している周りをながめますと、目に付くのが環境問題です。いわゆるゴミの問題です。美しい里山がゴミの捨て場所にされることです。地元の者はよくごみ拾いをしますが、情けないくらい多く捨てられております。どうしたら心無い人が少なくなるのか考えたいものです。ゴミのないきれいな郷土を愛する人になってもらいたいものです。幼少期からの教育が大切と思います。

先の震災で多くの命や財産がなくなりました。人と人の助け合いがいかに大切であったか語られています。今回の大会の準備から終了までとどこおりなくできたのは、平成 18 年に掛川まちづくり協議会が発足し、下半田川町、定光寺町の結びつきが強まり協力体制があったからこそと思います。この大会は地元の者に大きな自信と誇りという財産を残してくれました。

今後も、オオサンショウウオの保護活動を続けることが必要と思いますし、それによりこの地区の環境保全がなされることを願っております。



ため池プロジェクト活動報告

９月 29 日の作業も終了し、台風シーズンを無事乗り越えて秋のシーズンを迎えました。10 月以降はいよいよ仕上げの段階に入り、大きな山場を迎えることになりました。

10 月に入っても暑い日が続き、冷たい水が欠かせませんでした。10 月の作業は６日、13 日、20 日、27 日に行いました。森づくりグループによる間伐材の伐り出しは９月から始まりましたが、10 月以降本格的な伐り出しが行われ、ため池周辺には山手の土場、土捨て場の乾燥場が設けられました。製材、皮剥きの終わった部材は乾燥場に運ばれてきました。この間、作業道の整備、水路の整備なども行われました。

池内の流入土の搬出　11.11.10

11 月に入ると、寒暖の差が出てきましたので、最初の内は冷たい水と温かいお茶を用意しました。11 月の作業は３日、10 日、17 日、24 日に行いました。池内流入土の搬出作業も逐次行われるようになり、間伐材の搬出作業、水路整備、堤体池側の波消し処理なども行われました。

堤体の波消し処理 11.11.17

11 月 16 日には第 10 回ため池プロジェクト運営会議を開催しました。ここでは最終段階を迎えたため池修景作業で、これから行われる主要作業が検討されました。①イノシシ除けワイヤーネット柵の設置は山側では作業道の山側にネットを張ることが決まりましたが、作業道の管理道側と山側に取り付けられる扉については森づくりグループと話し合いながら、使い勝手のよいものにする予定です。②池内流入土については、逐次搬出作業を進めた結果、池底中央部分の搬出を終え、他の作業と並行して残りの搬出作業を行うことが確認されました。③作業道木橋については森づくりとの数度に及ぶ話し合いによって、間伐された材料に合わせて若干の変更は予想されるものの基本図面ができました。④水路などのシガラミ編みはこれからも行われますが、その土留めとなる植草木では初夏の頃に行った時はカワヤナギを挿し木しましたが、冬場はその適期でなく、別の植草木で土留めをしなければならないことが確認されました。海上にある植物で土留め用に適するものをできるだけ早い時期に決めなければなりませんので、どなたでも構いませんので是非ご提案頂きたいと存じます。⑤ため池は新年度から、ため池管理規定に基づいて維持管理されることになります。これも早く策定しなければなりませんので、たたき台を早めに作る予定です。

イノシシ柵の設置（管理道側）11.10.27

修景作業は今年度末で完了する予定です。本格的な冬のシーズンに入り、天候不順が続くことも予想されます。悪天候による中止も余儀なくされそうです。ぎりぎりになってから慌てることのないように、12 月以降の作業日には本号巻末に掲載しましたとおり、７月以来行っていなかった自主作業日も設定しました。多くの方々のご協力なしには施工作業を完遂させることができません。皆様の参加をお待ちしております。

（ため池プロジェクト・施工チーム事務局）

過去と現在を自由に往来しながら、海上に親しんでもらうコーナーです。

海上いま、むかし

⑮　幻の古代海上―篠田

海上には鈴木一族が定住して生活していたことは江戸時代の各種文献や多度神社棟札などで知ることができる（このことは本欄⑨「海上の鈴木姓」で述べた）。

徳川林政史研究所には藩政時代の多数の村絵図が残されているが、その中に愛知郡山口村の絵図一葉がある。弘化４（1847）年９月のこの絵図には、「枝郷海上」には７戸の民家が描かれ、「サクラ池」「ユツリハ池」の雨池によって灌漑された田には「御蔵入」と「給知」に区分けされている。さらに、現在の弘法堂周辺の本郷の他に「四ツ沢」には２戸の民家と「御蔵入・卯新田」が、「塚原」にも２戸の民家と「御蔵入・卯辰新田」の枝郷が記載されている。『尾張徇行記』（文政５年完成の地誌書）にも「（山口村）又支邑ヲ海上洞ト云、是海上洞御林ノ麓ニアリ、本郷ヨリ十八町ホト隔山奥ニアリ、矮屋十三四戸アリ、又塚原・四ツ沢ト云所ニモ二戸ホトツツアリ、是ハ共ニ見取所ナリ」とある。

「塚原（つかばら）」は赤津川が山口川と呼び名を変える所、海上入口の河畔に在る。そのやや上流が「篠田（しのだ）」である。昭和２年に海上地区で最初の砂防ダムが建設されて篠田池が出現した。そのためにここにあった２基の低地性古墳が水没したと聞いている。

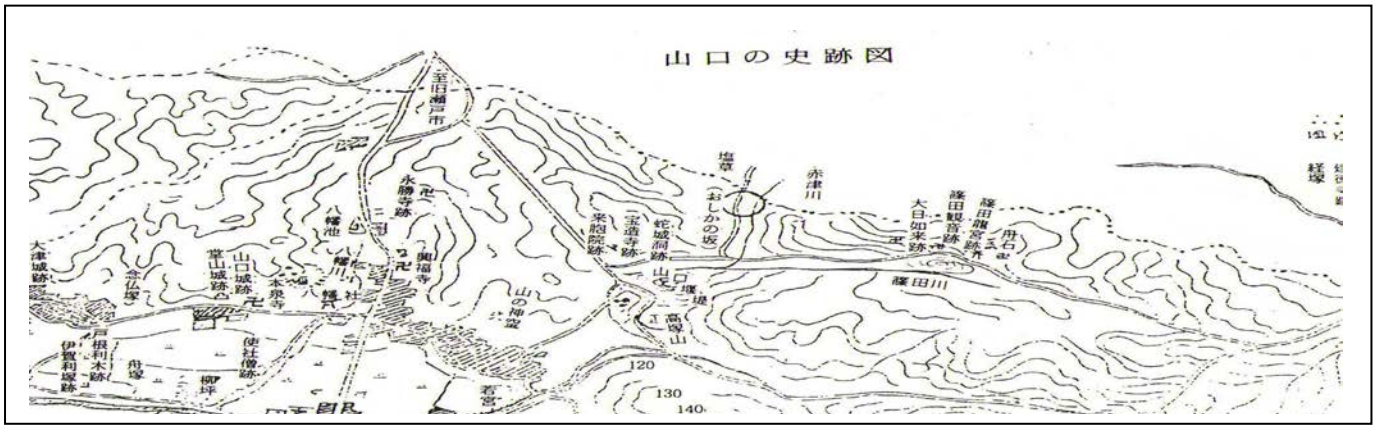
篠田池（平成　22 年　５月撮影）

海上に隣接する上之山町１丁目の鈴木真人家には多数の地方文書が残されていて、その中の一冊に「山田庄上菱野村古事由緒（写）」がある。原文書の所在が不明だが、江戸元禄頃までの内容が真人氏の先代政一氏が写したと記されている。中に次の一文がある。

一上菱野村篠田、当村より寅の方に当り、篠田神明宮、大日如来の石堂有り、篠田神社の上に舟石三そう有り明石と伝える。篠田に観世音有り、長和五（壱カ）壬子年九月

上菱野村は江戸時代の山口村のことで、「篠田」には長和５（1012）年に勧請された篠田観世音などがあったというのである。都では藤原氏が全盛の頃である。鈴木氏の先祖が落ち武者として定住したという落ち武者来住説を遡ること５世紀余のことである。

ドロ栓を抜いて全ての水と堆積土を排出、古代の原地形を復元したらどんな「幻の海上」が現れるのだろうか。　　（山川　一年）



「平成 23 年度里の教室」を終えて

里づくりグループ
藤 野　昌 之

11 月 20 日（日）、前日の雨から一転し晴れ渡った空の下、「里の教室」10 回目としてみんなで育てたもち米、ソバ、里芋、さつまいもを使い、収穫感謝祭が盛大に行われた。

里のくらし、里づくりグループが前日から下準備をし、当日は「教室」の参加者にも呼び掛けて早朝から作業を始めた。10 時には小川副知事、局長、技官、マリ名誉センター長が来場し大いに盛り上がった。

もちつきやソバ打ちが初めての子ども達も多く、里山サテライトは終日歓声に包まれていた。

収穫感謝で、子供たちでのもちつき

「教室」は 5 月 22 日（日）、あいにくの雨の中 91 名の参加者でスタートしたが、東日本大震災の影響が「教室」にも現れ、休日が土・日から平日に変更となった 2 家族が早々にキャンセルされた。

今年も昨年と同様、200 名を超える応募者があり、抽選で 121 名に決定した。参加者の中で希望が多かった田植え、稲刈りは好天に恵まれたが、そのほかは雨が多く、2 回目の教室開催日を急きょ変更したり、作業内容を座学に切り替えたりと臨機応変に対応した。

夏場は雑草取りや野菜の管理が中心で厳しい暑さの中での作業であったが全員が元気に作業出来た事はなによりであった。休憩時間には子ども達がスイカ割に興じ暑さを忘れた楽しいひと時であった。

里の教室にて、スイカ割り

「秋にソバの種まきや収穫がやりたかった」との話が参加者から出たが、種まき予定日が雨で中止、収穫予定日はソバの生育不足でスタッフだけの作業となったのは自然相手の農作業とは言え残念なことであった。

参加者からのアンケートを参考にして充実した「里の教室」となるようスタッフ一同で改善したいと思っている。

海上歳時記

海上の森の動植物の生き字引、里山環境保全事業のリーダー山本征弘さんに、海上の森の今の季節見どころを紹介して頂いています。

海上の森の歳時記（３月～４月）

１月

木枯らしが吹き木の葉が落ちたマルバアオダモ、シデコブシ、ミヤマガマズミ、アズキナシ等には冬芽が顔を出します。アセビ、キブシ、ヤマウグイスカグラなどはツボミが出来春を待っています。野鳥たちはメジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラ、エナガ等が混群を作り、イカルやルリビタキは木の実を食べにアオジ、ホオジロ、カシラダカは落ちた種など食べています。

２月

寒さが厳しい上旬はシロハラやベニマシコが必死に餌を探している姿に出会います。中旬になるとダンコウバイ、キブシ、クロモジ、コバノミツバツツジ等のツボミが大きくなり、日当たりの良い尾根道ではマンサク、アセビ、ヤマウグイスカグラの花が咲き出します。下旬の暖かい日にはウグイスの初音が聞こえシジュウカラ、ヤマガラ、ウソ等のさえずりが聞こえます。

３月

冬が終わり日差しが長くなるとクロモジ、ダンコウバイ、キブシ等の木の花が、ヘビイチゴ、タンポポ、オニタビラコ、オオジシバリ、ホトケノザ、ハルリンドウ、ショウジョウバカマ等の草花が咲き始めます。キチョウ、ルリタテハ、キタテハ、テングチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ等成虫越冬したチョウが翅を広げ日向ぼっこをしています。

１月：シデコブシ

１月：イカル

海上歳時記

海上の森の動植物の生き字引、里山環境保全事業のリーダー山本征弘さんに、海上の森の今の季節見どころを紹介して頂いています。

２月：マンサク

２月：シロハラ

３月：マンサク

３月：テングチョウ

調査学習会

23 年度の調査学習会は、５月８日の第１回「海上の森の春の植物」から始まり、11 月３日の第７回「海上の森の秋の植物」を以って終了しました。

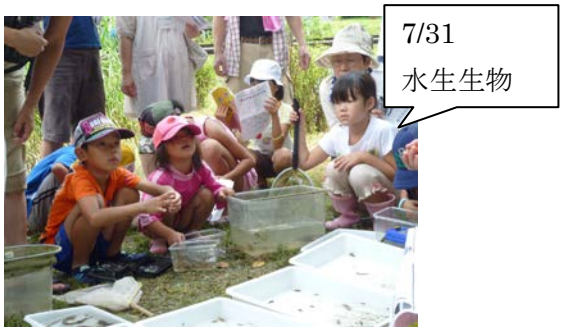
今年の調査学習会は第２回「海上の森の野鳥」を除いては天気に恵まれ、毎回幼児や小学生から成人まで男女の多様な県民が参加された。７回の調査学習会の募集人員 270 人に対して、306 人の応募者があり、全体を通して盛況でした。

調査学習会は、春と秋の植物、夏と秋のキノコ、野鳥、水生生物、昆虫と多彩な内容で行われ、中でも夏と秋のキノコと、水生生物は大変人気がありました。

春の植物と野鳥の調査学習会は、「海上の森だより第 22 号」で報告しましたので、第３回夏のキノコから第７回秋の植物の概略について報告致します。

第３回「海上の森夏のキノコ」は、参加者 53 人が午前中キノコを採取して歩き、午後からサテライトで採取したキノコをベニタケ科、テングタケ科、イグチ科やサルノコシカケ科等に分類し、分類され得たキノコと今回採取した冬虫夏草について講師から説明を聞きました。参加した小学生が一番前で熱心にキノコについて質問しているのが印象的でした。

第４回「海上の森の水生生物」は、海上の森センター前の吉野川で午前中参加者 34 人が水生生物を採取し講師からカワムツ、ガガンボ、ヘビトンボ、コオイムシ等の生態について説明を聞き、午後から海上の森センターで愛工大から借用した実体顕微鏡（3D 顕微鏡）で生きた水生生物の驚異的な生態について観察しました。参加者には大好評でした。



第５回「海上の森の昆虫」は、参加者 28 人が午前中海上の森センターで講義を聞き、午後から吉田川と海上の森でハグロトンボ、スジグロチョウ、オオミズアオ等の昆虫を採取しました。吉田川ではタマムシの群舞が見られ小学生は大喜びでした。

第６回「海上の森の秋のキノコ」は、50 人の参加者が午前中キノコを採取し、午後から講師がサテライトでシロタマテングタケ、ニガクリタケなど毒性のあるキノコ８種類、珍しいムツノウラベニタケやモリノカレバタケなど食毒不明なキノコ 52 種類、ナラタケ、シロキクラゲなど食べられるキノコを９種類に分類して夫々のキノコの特長について説明されました。夏秋ともに猛暑という気象に影響されて、例年より採取されたキノコが少ないようでした。

第７回「海上の森の秋の植物」は、参加者 34 人が午前中海上の森を ABC の３コースに分かれてアズキナシ、ムラサキシキブ、ゴンズイなどの木の実やアキチョウジ、アケボノソウ、ノミノフスマなどの草花を観察し、午後から映像を見ながら秋に見られる海上の森の樹木の実や野草の花などについて学習しました。毎回参加した幼児２人がスタッフに付っきりで木の実や草花を教えて貰い、一所懸命に観察ノートに記録している微笑ましい様子が見られました。

（似内　信彦）

グループ報告

里の再生Ｇ

グループリーダー　鈴木　五男

稲穂は頭が下がり木々は色づき、里山に実りの季節がやってきました。豊作か否か気になる季節でもあります。再生活動は天候にも恵まれ、楽しく汗かき作業を続けています。

第４回　ハザ（稲架）づくり

「ハザ」とは稲を刈り取った後、稲穂を乾燥させるための横棒で、それを支える棒をハザ杭といいます。材料は全て間伐材を利用、切断、皮むき、削りと慣れていない作業、特に皮むきは技術を要し、手助けする場面もありましたが、23 本のハザ杭と２本のハザを作ることが出来ました。

上手に出来ましたね

女子＝私が削って尖らせました

第５回　稲刈り・脱穀

谷津田の再生に始まった米作りはため池の造成によって、安定した給水が得られるようになりました。23 年は苗の生育が遅く、コナギ（ミズアオイ科）の大量発生したこともありました。子出来も予想されましたが、日々の管理や幾度となく、実施された田の草取りの効果もあってか、お盆くらいから持ち直してきました。心配された台風の影響も殆どなく、秋晴れの中で刈り入れに取り掛かりました。参加者の多くは経験がない人でスタッフの指導を受けながら刈り取りました。予定の稲刈り、脱穀から藁積みまで順調にこなすことが出来ました。４畝歩で 198Kg の収穫でした。

本日の感想は

女子＝稲刈りは楽しい
男子＝　楽しいもっとやりたい
女性＝　田植えから参加しています。試食が楽しみです子供が楽しみにしています。良い経験になります
男性＝家族で参加できるのがいいと思うこの風景で作業できるのがすばらしい

第６回　くん炭づくり

モミガラくん炭は土壌改良剤、炭によって水分が保たれ、雨水を浄化してくれます、寒いときは地温を高めてくれ、暑いときは下げてくれます、そして微生物の格好のすみかとなります。炭を畑に入れ続けることで、細根が増える、土が肥沃化して施肥量を減らすこともできます。

スタッフにより、くんたんの効果、手順等の説明があり。小枝集めから開始しされました。土台となるレンガを平地に置き火を起こします。小枝に火がついたら、レンガの上に窯（炭焼き用）を乗せ周囲に満遍なくかけるようにモミガラを被せていきます。モミガラの表面が黒く焦げ目ができたら、その周りにモミガラをかけていく。白くなると灰になるのでこまめにかけます。３箇所同時で行い２５袋約２５０ℓの、モミガラくん炭ができました。出来上がったくん炭は向こう１年畑作で使用します。

昨年手がけた平茸が勢い良く生えてきました

くん炭について

男性＝　聞いたことはありましたが、利用すべきと思います
女性＝　くん炭について勉強になりました。別の機会で紹介したいと思います

平茸です

女子＝　食べられますか
男子＝　なぜ折り重なっていますか
女性＝　すごいですねこれが平茸ですか
男性＝　地面からも出てきていますね

グループ報告

案内・巡視Ｇ

グループリーダー　鈴木　正司

案内・巡視グループは、海上の森に関する「案内、問い合わせ」に対応、併せて自然保護に努め「不法な植物採取やゴミの不法投棄発見」にも対応しています。月２回（第２・第４日曜日）の定例観察活動ではありますが、少しづつ環境保全に対する意識やマナーが向上していることを感じます。今後も来訪者との親睦を一層図っていきたいと思います。

里のくらしＧ

グループリーダー　出口　なほ子

海上の里も「実りの秋」で大変忙しい時期でした。「サテライト管理Ｇ」や「里の教室Ｇ」のお手伝いやらで、里へ出かけることが多かったです。収穫感謝祭用の竹食器づくりや薪づくり（鈴木敏明さん宅の孟宗竹や間伐木頂戴、感謝）を行いました。おかげさまで 11 月 20 日の収穫感謝祭は参加者２３０人と大盛況でした。

収穫感謝祭の様子。

12 月 23 日（祝）のサテライトの年末大掃除や迎春準備の日には、理事や一般会員の方々にも多数参加していただきたいと思います。23 年最後の行事ですので、ご協力お願いします。

森の再生Ｇ

グループリーダー　平野　幸治

９月３日（土）より間伐作業に入りましたが、あいにくその日は台風で作業中止。10 月以降でも企業連携の間伐作業や各種イベントと調整しながら作業を行いました。

（１）この時期の主な作業はため池修景作業用架橋材料の切り出しでした。普段の活動エリアでは十分な太さの間伐材が不足するので、ため池プロジェクトの使用材料の調整をお願いします。

（２）再生グループの間伐・枝打ちを行っているエリアは、一般散策者が見てもその効果がよく判るよう今後も継続して行います。

（３）今年度中に県内で専業森林伐採を行っている企業または組合を訪問・見学、現場の意見を聞きたいと思っています。間伐・枝打ちなどの私たちの作業は安全第１がモットーですが、さらにスキルアップを図りたいと思います。

里山のものづくりＧ

グループリーダー　福田　澄夫

今年から、団体さんを中心に参加を募り実施しています。既に８月に１回 10 月に２回実施してきています。今回は 11 月 18 日に地元幡東小学校の２年生 70 名が参加したものづくり教室を紹介します。事前に直接小学校に企画を持ちかけ、授業の一環として取り組まれたものです。

午前中工作室は賑やかな声が満ち溢れていました。間伐材にモリゾー・キッコロの焼印を押したものに好みのクレヨン、マジック、サインペンな

どで色塗りし、さらに枠外にドングリや木の実などでデコレーションして最後に裏に支え木を接着して完成です。時間に余裕のある子たちは名札を作成していました。実に多様な感性でそれぞれ個性のある作品が完成しました。引率された先生からは「通常の授業ではこうした自然のものを使って作品を作る機会は少ないので本当に良かったです」といわれました。後日寄せられたアンケートでも「また作りたい」の可愛い意見が多かったです。

11/18 幡山東小学校 2 年生の里山ものづくり

「自然に親しむ」のは講師の話だけではなく、実際に体験して学ぶこともこれからの子供にとって大切なことですね。

自然環境調査G

グループリーダー　曽我部　紀夫

今年は 10 月になっても秋の気配を感じない気候でしたが、11 月になり秋らしくなりました。

春に例年になく木々の花が多かったこともあり、ミヤマガマズミ、カマツカ、アズキナシなどの木に非常に多くの実がなっていました。

今年は葦を食草とする蝶クロコノマチョウの幼虫を長期間(10～11 月)にわたりよく観ることができました。ただし、クロコノマチョウの成蝶は例年通りあまり観る機会はありませんでした。

海上の森駐車場から森への道路脇を草刈され、道端の葦はわずかに残った状態になり、その残った葦にクロコノマチョウが集中して卵を産み付けた結果でしょう。草刈で道端が明るくなったので来年はどんな草花が出てくるのか　楽しみです。

9 月末に県の自然環境課と協働で希少種スミレサイシンの自生地の草刈（藪刈り？）をしました。藪のような状態から地面に日光があたるようになりました。来春、スミレサイシンの咲き具合がどうなるか期待しています。

クロコノマチョウの幼虫

スミレサイシンの自生地の草刈作業

今後も自然環境課、海上の森センターと協働して希少種の保護、保全の作業を行っていきます。

野あそびG（森ッ子クラブ）

グループリーダー　大澤　秀文

森ッ子クラブは10月29日（土）と12月11日（日）の２回活動しました。秋から初冬に向けたこの時期の‘あそび学習’は、なんと言ってもドングリと落ち葉です。そして子どもたちにとって楽しみなクリスマスです。

◆１０月２９日（土・晴れ）は、ドングリひろいをしながら「あそび村」で、　ドングリ笛、ドングリの育て方などをしました。そしてみんなが楽しみにしていた裏山にひみつ基地を内緒のところにつくりました。ドングリひろいは、アベマキとアラカシのドングリが少しだけでした。今年はドングリが少ないようです。でも途中で出会ったトンボや大きなクモの巣で立ち往

グループ報告

生です。ひみつ基地づくりでは、みんなノコギリとヘルメットをかぶり　‘きこり’の気分で木を倒し、まだ途中ですが素晴らしいひみつ基地に座りとても気分爽快でした。

牛乳パックにどんぐりを植えました

◆１２月１１日（日・晴れのち曇）は、森でリース材料を集めながら「あそび村」で、クリスマスリースづくりをしました。リース材料にするヒノキの葉っぱやフジつる、クズのつるを一人一人が森の中で探してきました。早速「あそび村」の広場で集めた材料を広げ、お昼のお弁当を挟み、松ぼっくり、ヤブツバキの実の殻など使い、思い思いのすばらしいクリスマスリースを作りました。またスギ玉づくりも飛び出しみんな大満足でした。

森のリースができました。

「企業連携」とは？

あいち万博の原点である「海上の森」を県・県民・企業など多様な主体が一丸となって、愛知万博の精神を引き継ぎ全国的にも評価される「森」として育てていきたいと考えられております。こうした一環で、海上の森での取り組みは、万博の理念や成果を継承するものとして企業イメージ向上にも寄与します。CSR（企業の社会的貢献）を旗印にしている企業（会社）と「あいち海上の森センター」とで３年間（延長可）の契約を結んでいるものです。

「海上の森の会」は、こうした目的と私たちが目指そうとする事が一致していることから、全面的に技術指導を行っているものです。具体的のは、イナックス、KDDI・伊藤園・トーマツ・ナゴヤキャッスル・連合愛知・トヨタ自動織機・小林クリエイト（敬称略・順不同）の社員や家族の皆さんを対象として人工林の間伐作業を中心に行っているものです。

「海上の森の会」では、「森の再生グループ」の方々に協力いただいています。

文責　福田　澄夫

＜１月～３月のグループ活動予定＞

森の再生グループ

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
１月	７日（土）10 日（火） 21（土）24（火）	9：00～	製材小屋	間伐作業	弁当・飲料水
２月	４日（土）７日（火） 18（土）21（火）	〃	〃	〃	弁当・飲料水
３月	３（土）６（火） 17（土）21（火）	〃	〃	〃	〃

里の再生グループ・スタッフ作業日

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
１月	18 日（水）･28 日（土）	9：00～	サテライト	柿畑・上田整備	お弁当・飲料水
２月	１日（水）･25 日（水）	〃	〃	ｼｲﾀｹ菌うち・猪対策	〃
３月	７日（水）･24 日（水）	〃	〃	畑地耕転・畑地整備	〃

里の教室・スタッフ作業日

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
３月	14 日（水）・28 日（水）	9：00～15：00	サテライト	農作業	お弁当・飲料水

ため池施行チーム

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
１月	12 日（木・定）･19 日（木・補）20 日（金・自）26 日（木・定）31 日（火・自）	9：00～15：00	入口駐車場	ため池の修景作業	お弁当・飲料水
２月	２日（木・　補）・７日（火・自） ９日（木・定例）・16 日（木・補）・ 23 日（木・定例）・28 日（火・自）	３月	１日（木・補）・６日（木・自）８日（木・定） 15 日（木・補）・20 日（火・祝・自）22 日（木・定） 《定＝定例的作業日・補＝補足的作業日・自＝自主的作業日》		

特定非営利活動法人　**海上の森の会**

事務所　：〒489-0857　瀬戸市吉野町 304-1

「あいち海上の森センター」３Ｆ

電話＆ＦＡＸ：0561-21-9298

Ｅメール：morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp

ご意見ご感想をお待ちしています

森の会への連絡はメール・ＦＡＸ・〒でお送り下さい

里のくらしグループ＜どんど焼き＞

日時：H24 年１月９日（月・祝）

集合場所：里山サテライト

時間：午前 10：00～

会費：会員 300 円

行事：二日のとろろ・七草粥・どんど焼き

持ち物：お茶・食器

編集後記　：先号はカラーページでお届けしましたが、今号は一部カラー化としました。会員皆さまの貴重な会費で作成していますので無駄使いはしない方針ですが「この美しさだけはお知らせしたい」の思いが強く歳時記のページのみカラーとしました。「ゴミ箱直行型」ではなく、会の想いが会員の皆さんの心に響くようなそんな冊子を引き続き求めていきたいと思っていますので、ぜひ沢山のお力とご意見をお寄せ下さいますようにお願いします。（福田　澄夫）